

議会報告会実施報告書

開催日時	令和4年11月1日 14時00分～15時30分			
開催場所	三島市役所本館第二会議室			
出席議員	班長	宮下知朗	副班長	村田耕一
	大石一太郎、野村諒子、藤江康儀、佐野淳祥、佐藤寛文			
欠席議員	なし			
参加人数	8名			
実施内容	1 出席者自己紹介 2 議会報告 (1) 「コロナ禍に伴う物価高騰に対する要望書の提出について」 (2) 「認知症対策について」 3 質疑応答・意見交換 ～認知症対策について～			
主な意見 ・提言等	市民の理解、大胆な周知活動、認知症に対するイメージを変える 敷居の低い相談窓口・思いを話せる場所必要、早期発見、医療へつ なぐ意識を持つ、スポーツ・運動のやりやすい環境を作る			

令和4年11月15日

三島市議会議長 川原 章寛 様

三島市議会報告会実施要綱第11条第1項の規定により提出します。

令和4年度議会報告会 福祉教育班 班長 宮下 知朗

意見交換1（課題出しと選択）

- ・ 取組み自体は充実していると思うが周知が十分でないことから理解不足である
- ・ 地域での理解不足で地域で支えることができない
- ・ 早期発見、医療につなぐことがむずかしい
- ・ 家族の悩みを聞いてくれるところが少ない、周囲に相談することができず家族だけで苦しんでいる事例が多い
- ・ 相談窓口の敷居が高く感じる
- ・ 全体として予防の取組みが弱い
- ・ 独居の高齢者にどう接して誰が発見していくか、独居高齢者からぎりぎりに連絡があるためもっと早くつながれば選択肢が増える可能性がある、地域で気にかける人が増えるようになればよい
- ・ スポーツ運動のやりやすいところが少ない
- ・ 認知症は恥という気持ちがある、恥の文化という認識を改める
- ・ 高齢者の外出移動が難しくなっている

意見交換2（課題の解決に向けて）

- ・ 取り組みの方向性を統一し、大胆な周知啓発を行い、認知症のイメージを変え、地域での理解促進を図る
- ・ 連携協力体制を充実させ、早期発見診断、医療へつなぐ仕組みを考える
- ・ 相談窓口の敷居を低くし経験者や専門家を相談者とする
- ・ 相談窓口は中学校校区に設置する
- ・ 認知症一步手前の人に対する支援策を考える
- ・ 独居高齢者の情報収集の仕組みを考える
- ・ スポーツ運動のしやすいところを提供する
- ・ 家族の悩みを十分に話せるところをもうける

その他の意見 高齢者の足を確保する、介護保険制度改定に反対